

當量ノ痘苗ヲ塗布シタル後切種用種痘針ヲ以テ其ノ部ニ淺キ十字切(長サ一分乃至二分)若ハ單線切(長サ約三分)ヲ施シ更ニ種痘針ノ平面ヲ以テ痘苗ヲ擦入スベシ  
切種ニ際シテハ成ルベク出血セザル様注意スベク僅ニ紅痕ヲ呈スルヲ以テ適度トス

第十條 接種數ハ第一期種痘ノ他ニ在リテハ右上膊四切乃至六切第二期種痘其ノ他ニ在リテハ左上膊六切トシ各切ノ距離ハ五分以上ナルヲ要ス但シ必要アルトキニ他側又ハ他ノ部位ニ接種スルモ妨ナシ

第十一條 施術者ハ受痘者ノ健康狀態ニ注意シ左ノ各號ニ該當スル者ニハ成ルベク種痘ヲ猶豫スベシ

但シ第四號ヲ除ク外痘瘡流行ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一、出生後九十日未滿ノ者

二、著シク營養障礙ニ陷レル者

三、蔓延性皮膚病ニ罹リ居ル者

四、熱性病又ハ重症疾病ニ罹リ居ル者

第十二條 檢診ノ場合ニ依テ注意スベキ要項左ノ如シ

一、定型痘顆粒二以上發痘シタルモノヲ善感トス但シ第二期種痘以後ニ在リテハ接種ノ日ヨリ第三日後ニ於テ一顆以上ノ小結節又ハ水疱ヲ生ジタルモノモ亦善感トス

二、接種ノ痕跡消失シタルモノ、不正ナル膿疱ヲ生ジタルモノ、潰瘍ニ陷リ又ハ痂皮ヲ結ビタルモノ又ハ第一期種痘ニ在リテ發痘一顆ナルモノヲ不善感トス

第十三條 施術者又ハ當該吏員ハ受痘者又ハ其ノ保護者ニ對シ種痘後注意スベキ事項ヲ指定スベシ

### 〔二〕學校傳染病豫防及消毒法

(明治三十一年九月二十八日文部省令第二十號)  
改正加除(明治廿二年十一月文部省令第四十四號)

學校傳染病豫防及消毒方法ヲ定ムルコト左ノ如シ

學校傳染病豫防及消毒方法

其一 豫防方法

第一條 學校ニ於テ特ニ豫防スベキ傳染病ノ種類左ノ如シ

第一類

甲 痘瘡及假痘 實布の里亞 猩紅熱 發疹室扶斯 ベスト

乙 百日咳 麻疹 流行性感冒 流行性耳下腺炎 風疹 水痘

肺結核 癩病

第二類

赤痢 虎列刺 腸室扶斯

第三類

傳染性皮膚病 傳染性眼炎

第二條 第一條第一類甲又ハ第二類ノ傳染病ニ罹リタル職員生徒等ハ昇校スルコトヲ得ズ

前項ノ職員生徒等其傳染病治愈シタル後昇校セントスルトキハ先ヅ全身浴ヲ行ヒテ衣服ヲ更メ且ツ醫師ニ於テ傳染ノ虞ナキコトヲ證明スルコトヲ要ス

第三條 第一條第一類乙又ハ第三類ノ傳染病ニ罹リタル職員生徒等ハ其病況ニ依リ醫師ニ於テ適當ノ處置ヲ施シ傳染ノ虞ナキコトヲ證明シタルモノニアラザレバ昇校スルコトヲ得ズ

第四條 職員生徒等ニシテ家族又ハ同居人中ニ第一條第一類甲又ハ第二類ノ傳染病ニ罹リタル者アルトキ又ハ學校内ニ傳染病發生シタル場合ニ於テ其患者屍體又ハ病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル物件ニ觸接シタルトキハ醫師ニ於テ適當ノ處置ヲ施シ傳染ノ虞ナ

キコトヲ證明シタル後ニアラザレバ昇校スルコトヲ得ズ

第五條 教員舎監等學校内ニ於テ第一條ノ傳染病若クハ其疑アル者ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ當該學校長ニ申告スベシ學校長ハ醫師ヲシテ診斷セシメ相當ノ處置ヲナスベシ

第六條 學校内、學校所在地及其近傍若クハ生徒通學區域内ニ於テ第一條ノ傳染病發生シタルトキハ其病況ニ依リ必要ト認ムルトキハ全校若クハ其一ヲ閉鎖スベシ

第七條 學校所在地若クハ其近傍ニ於テ第一條第一類甲又ハ第二類ノ傳染病發生シタルトキハ明治三十年文部省訓令第一號ニ從ヒ充分ノ清潔方法ヲ施行スベシ第一條第二類ノ傳染病發生シタルトキハ校舍内ニ於テ使用スル飲料水ハ煮沸シタルモノヲ用フベシ

第八條 生徒通學區域内ニ於テ第一條第一類甲又ハ第二類ノ傳染病發生シ其病況ニ依リ必要ト認ムルトキハ其局部ヨリ通學スル生徒ノ昇校ヲ停止スルコトヲ得此場合ニ於テハ當該學校長ヨリ二十四

時間内ニ其旨ヲ管理者ニ届出ヅベシ

第九條 傳染病ノ爲ニ閉鎖シタル學校若クハ其舎室ハ再ビ之ヲ使用スルニ先チ明治三十年文部省訓令第一號定期清潔方法ノ各項ヲ施行スベシ

其二 消毒方法

第十條 學校ニ於テ第一條第一類又ハ第二類ノ傳染病發生シタルトキハ其屍體、排泄物又ハ病毒ニ汚染シ若クハ汚染ノ疑アル物件ニ對シ左ノ區別ニ依リ消毒方法ヲ施行スベシ但第一條第三類ノ傳染病發生シ其病況ニ依リ必要ト認ムルトキハ適宜本條ノ消毒方法ヲ應用スベシ

一 第一條第一類及第二類ノ傳染病患者ノ屍體第一類ノ傳染病患者ノ用ヒタル唾壺、第二類ノ傳染病患者ノ上リタル圍房其他障壁、牀疊、建具、寢臺、器具等ハ石炭酸水ヲ以テ消毒スベシ

二 第一條第二類ノ傳染病患者ノ吐瀉物其他ノ排泄物ハ生石灰又

- ハ木灰汁ヲ以テ消毒シ強亞爾加里性反應ヲ呈スルニ至ルベシ
- 三 食器、被服、寢具等ハ煮沸又ハ蒸氣消毒ニ附スベシ
- 四 消毒困難ニシテ廉價ナルモノハ之ヲ燒却スベシ
- 五 前各項ノ消毒ニ適セザル者ハ之ヲ刷掃シ數日間日光ニ曝スベシ

第十一條 消毒ニ供スル藥劑並其應用ハ左ノ如シ

- 一 石炭酸水(二十倍) (結晶石炭酸五分、鹽酸一分、水九十四分ヲ攪拌シ溶解シタルモノ)
- 本品ハ屍體、吐瀉物其他ノ排泄物器具、居室、手足等ノ消毒ニ用フ又衣類ヲ消毒スルニハ鹽酸ヲ加ヘザルモノヲ用フベシ
- 二 生石灰末 (生石灰ニ少量ノ水ヲ灌ギ崩壞セシメタルモノ但用ニ臨ミテ之ヲ製スベシ)
- 本品ヲ以テ吐瀉物其他ノ排泄物ヲ消毒スルニハ其分量ノ五十分ノ一ヲ用フベシ又溝渠、芥溜、牀下等ヲ消毒スルニ用フ

石灰乳(十倍) (生石灰一分ニ水九分ヲ攪拌混和シタルモノ)

本品ノ應用ハ生石灰末ニ同ジク吐瀉物、排泄物等ニハ其分量ノ五分ノ一ヲ用フ

- 木灰ハ生石灰ヲ得ルコト能ハザル場合ニ於テ虎列刺病患者ノ吐瀉物、赤痢病患者、腸窒扶斯患者ノ排泄物ノ消毒ニ用フルコトヲ得其用量ハ吐瀉物、排泄物ノ五分ノ一トス、灰汁トシテ使用スルニハ木灰一分ニ水四分ヲ加ヘ之ヲ煮沸シテ製スベシ、其用量ハ吐瀉物、排泄物ノ同容量トス、但石炭灰、藁灰ハ木灰ト同一ノ效ナシトス
- 三 格魯兒石灰水(二十倍) (格魯兒石灰五分ニ水九十五分ヲ攪拌混和セルモノ) 格魯兒石灰水ノ應用並用量ハ石灰乳ニ同ジ但用ニ臨ミテ製スベシ

附 則

第十二條 此省令ハ幼稚園ニ適用ス

### 第九篇 全身病

#### 〔一〕腺病症

Scrophulosis 一名瘰癧症

#### 原因

結核症ノ實驗大ニ進歩セル今日本病ノ解釋ニ就テハ議論多クシテ結論甚ダ困難トナレリ、多數ノ學者ハ今猶ホ病牀的ノ解釋ニテハ本病ハ毀傷サレ易キ、偶、輕微ノ刺戟ニ遇ヘバ忽チ之ニ反應シテ炎症ヲ起シ、而シテ一度之ヲ起セバ其經過緩慢ニ流レ易ク且再發シ易ク、一度病的組織ヲ發生スレバ甚ダ頑固ニシテ容易ニ消散セズ、且容易ニ健康組織ヲ生ゼザル所ノ一種ノ體質ナリト説明スル者アリ、或ハ本病ハ結核ニ感染シタルモ一種ノ體質ノ爲ニ特別ナル症候ヲ發シタル結核性疾患ニ過ギザルモノト論ズル者アリテ諸家ノ說未ダ一ニ歸セズト雖モ多數ノ學者ハ本病ヲ以テ一種ノ結核症トセリ

本症中腺ノ腫大腺病性骨疾及關節炎、狼瘡等ニハ殆ンド毎回結核菌ヲ發見セラレ、之等諸疾患ノ結核性ナルコトハ今日ニ至テハ已ニ確實トナ

リシモ、猶ホ其他ニ從來腺病性疾病ト稱シ來レル「エクソニーマ」加答兒「オチニ」ナ等ノ如キ皮膚及粘膜ノ諸病ニハ未ダ結核菌ヲ證明シタル者ナク、之等諸病ヲ直ニ結核性ナリト斷定スルコト能ハザルガ故ニ、之等ノ疑問ヲ明カニスルニハ猶ホ幾多ノ歲月ヲ要スベシ、爰ニ最モ注意スベキハ之等ノ小兒ニ對スル「ツベルクリン」反應（カルメット法）（ヒルケ法）ハ多クハ陽性ナルコトナリ

吾人ガ僅ニ實驗シ得タル者ハ往々遺傳ニ由ルコト、不良ナル生活、營養不良、清潔ナラザル空氣、換氣不完全、光線不足、濕氣強キ住所等ニ過ギズ、其他百日咳、麻疹、痘瘡及時トシテ種痘ノ如キ疾病ノ經過シタル後急ニ種種ナル本病症狀ヲ發スルコトアリ

古來本病ト稱セラレタル疾患ニ就テハ今ヤ其多數者ハ結核症ニ他ナラザルコトヲ證セラレタリト雖モ然モ此特種ノ症狀ヲ呈スルニ至ルノ體質ニ即一種薄弱ノ異常ノ體質アルコトニ留意シテ「ルニ」ハ之レニ「滲出性素質」(exsudative Diathese)ノ名ヲ命ジエシ「リッヒ」及「ホイブネル」ハ「淋巴

素質 (Lymphatismus) ト稱セリ而ノ現今腺病質トセル者ヲ、感、染、セ、ル、淋、巴、  
素質 (Infecter Lymphatismus) ト稱スル者アリ

ツェルニ一 (Zainy) ガ滲出性素質ト稱スル者ハ先天性身體異常ニシテ主トシ  
テ小兒期ニ現ハシ、遺傳性ナリ、一家ノ小兒ハ多クハ同素質ニ罹レリ、本病ノ  
症候ハ已ニ一年以下ノ年齢者ニ發ス  
之ニ罹ル者ニ二類アリ、甲ハ生下體重已ニ輕ク、人乳ヲ與フルモ增量充分ナ  
ラズ、人ハ誤テ之ヲ人乳ノ不其ナルニ歸シ、小兒體質ノ異常ナルヲ思ハズ、若  
シ此際脂肪少ナキ含水炭素富有ノ人工營養ヲ試ムルトキハ一時體重ノ著  
ク増加シ、小兒ノ肥滿ヲ見ルベシ、乙ニ屬スル小兒ハ多量ノ乳汁ヲ與ヘザル  
モ其ク肥滿シ、脂肪著シク發育スルモ軟ニシテ、皮膚稍蒼白ヲ帶ブ、  
症候トシテ發スル症狀ハ舌ニ於ル滲出 (治癒速ニシ) ニシテ地圖舌 (Jan kerita  
zainy) ノ名アリ、頭部頸門附近ニ於ル汚穢灰白色ノ鱗屑ヲ生シ、之ヲ除ケバ下  
ニ充血セル皮色ヲ現ハシ漸時ニシテ再ビ同一ノ鱗屑ヲ生ズ、之ヲ除クノ際  
皮膚ヲ損傷スレバ之レヨリ病毒ヲ感染シ濕疹ヲ發ス、稍之ニ類似セル變狀  
ヲ頰面ニ生ズ、其部紅色ヲ帶ビ粗糙トナリ、剝屑ヲ起ス、若シ搔痒ノ爲ニ搔破  
セバ病毒感染ニ由リ濕疹トナルベシ、彼ノストロフイルス (Strophilus) ト稱ス  
ル搔痒強キ濕疹ヲ生シ易シ、皮膚ハ甚ダ損傷セラレ易キ性質ニシテ殊ニ肛

門周圍 (下病等) 鬚髮間 (腋窩、頸部) 耳翼後部等ニ之ガ爲メ多ク濕疹ヲ生ズルニ  
至ル

皮膚ニ滲出チ生シ易キガ如ク亦粘膜ニ於テモ同様ナリトス、舌ニ於ル滲出  
ハ已ニ論セリ、氣管及氣管枝粘膜モ亦屢々侵サレ時トシテ喘息樣症狀ヲ發ス、  
蔓延性氣管枝加兒ニ陥リ易ク、屢々之ヲ發生シ爲ニエムフヒセム胸形トナル  
コトアリ

氣管ノミナラズ咽頭屢々侵サレ、扁桃腺、咽頭、咽頭扁桃等天候變化ゴトニ刺戟  
セラレ、類數ナルガ爲ニ途ニ肥大ニ陥ルコト多シ、之等ノ疾患ヨリ中耳炎ヲ  
繼發スルコト多キハ勿論ナリ

ベルツ氏ハ本病ハ歐洲ニ於ケルヨリモ本邦ニ稀ナリト(ベ氏內科學)稱スレ  
ドモ果シテ然ルヤ否

余ガ實驗ニ於テモ歐洲ニ於ルガ如キ症候著明ナル者ハ本邦ニ少ナク  
ベルツ氏ノ實驗ト一致ス

**症候** 早晚皮膚筋肉等ニ弛緩ヲ來シ、皮色蒼白ヲ呈スル者アリ、或ハ  
皮下脂肪著シク發生シ或ハ頰部桃紅ヲ呈スル者アリ、故ニ腺病質ヲ鈍  
性、敏性ノ二種ニ別ツモノアリ而シテ甲ニハ脂肪多ク發生シ顔面膨腫

セルガ如キ容貌ヲ呈シ、口唇肥厚シ、鼻孔附近ニ屢々潰爛ヲ生ジ、眼瞼縁充血腫脹シテ結痂附着シ、水泡性結膜炎ニ罹リ、差明ヲ起シ涙液溢流シ、涙液、鼻汁等ノ流レタル部分ノ皮膚ハ刺戟セラレテ濕疹ヲ生ジ一見特異ナル容貌ヲ呈セル者ヲ(吾人ガ今日專ラ腺病質ト稱スル者ナリ)稱シ乙ハ顔面長形皮膚嫩柔ニシテ白色ヲ呈シ潮紅シ易ク靜脈皮下ニ透現スル者ヲ(今日吾人ハ之ヲ結核體型トス)云フ、然レモ本病ノ症狀ハ實ニ千種萬態ニシテ其主トシテ侵サレタル内臟若クハ組織且病勢ノ輕重等ニ由テ一様ナラズ

多クハ生下一年ノ末頃ヨリ漸々症候現ハン、初兆ハ、頸、顎下、項部稀ニハ他ノ部ノ淋巴腺モ同時ニ腫脹スルニアリ、輕重一樣ナラズ、疼痛等ノ患苦ナク、多クハ近傍ノ皮膚若クハ粘膜炎患ニ繼發ス

皮膚殊ニ面部、頭部、四肢等ニ慢性、エクトツームヲ發シ、或ハ痒癬、苔癬ニスクロフロデルマ等ヲ發ス、長ク治癒セザル者アリ

粘膜炎ニ於テハ、好ンデ眼結膜、鼻粘膜炎、角膜ヲ侵シ(種々ノ結膜炎及角膜炎、

眼瞼脂腺炎、慢性鼻加答兒、オチニナ等慢性耳病、鼓膜穿孔ヲ兼ネタル慢性中耳炎、「カリエス」、咽頭加答兒、扁桃腺肥大等ヲ發シ、其他骨關係亦本病ニ侵サル、ト多シ(骨炎、骨膜炎等)

氣管枝加答兒、加答兒性肺炎、腸加答兒等ノ諸病殊ニ本病ニ多發スルヤ否確實ナラズト雖モ、若シ之ヲ發セバ慢性ニ流レ易シ

總テ之等皮膚及粘膜炎ノ加答兒ハ、腺病質小兒ニ在リテハ治癒シ易カラザルト再發シ易キトヲ特異トス

**療法** 本症ノ療法ハ甚ダ夥多ナルモ要スルニ衣、食、住、ノ改良ヲ以テ最モ緊要ノ治法トス、即家屋内ノ換氣法ヲ完全ニシ、清淨ノ空氣ニ居ラシメ、室ハ日光ヲ容レ寒濕ヲ防グベシ、北方ニ向ヒ日光ヲ受ケザルハ不適當ノ住居トス、或ハ庭園ノ樹木多キニ過ギ、地上青苔ヲ生ズルガ如キハ不適當ナリ、食物ハ主トシテ滋養強壯ノ者ヲ與ヘ、家外ニ出デ適宜ニ運動遊戯ヲナサシメ、又時々入浴セシメテ皮膚ヲ清淨ニシ、清潔ノ衣服ヲ用ヒ兼ネテ季候温暖ナルルルヨリ冷水ニテ侵シタル布片ヲ以テ身體

ヲ拭ヒ且ツ摩シ、(虚弱者ニハ初メ乾キタル布片ニテ摩擦シ患者ノ慣ルルヲ俟テ濕布ニ進ムベシ)寒中ハ温室内ニ於テ之レヲ行ヒ、暑中ハ水泳ヲ試ミ以テ皮膚ノ強固ヲ催進スベシ故ニ轉地療養ニハ日光ヲ良ク受クル所ノ山林、海濱等ヲ撰ミ願クハ數月此處ニ轉居セシメ、鹽浴(海水、溫泉)ヲ用フルハ最モ有效ノ療法トスレモ二年以下ノ小兒耳疾若クハ眼病ニ罹レル者ニハ適當セズ、又鈍性腺病質ノ者ニハ海水浴適スベキモ敏性腺病質者ハ却テ鹽水浴ヲ好マザルコトアリ、最モ注意スベキコトス、總テ之等ノ轉地療法ハ獨リ富家ニ行フベクシテ下等社會ニ在テハ之ヲ試ムル能ハズ、故ニ歐洲ニ在テハ近時漸ク山間、海濱等ニ慈善的病院若クハ養生所ヲ起スノ舉アリ、又林間屋外ニテ授業スル校舍アリ(林間學校 Waldschule)

射シ、漸々増量シ、一回量一「ミリグラム」ニ達ス

- 沃度化鐵舍利別 各一〇〇
- 單舍利別 右一日三回十二滴乃至十五滴宛
- 沃度加里 〇・五—一〇—二〇
- 縮水 八〇〇
- 桂皮舍利別 二〇〇
- 右一日二回乃至四回一小兒匙宛
- 「ゲアヤコール」 一〇
- 機那丁幾 二〇
- 「マラサ」酒 一〇〇〇
- 右每食後一小兒匙宛
- 肝油 八〇〇
- 右一日二回一茶匙乃至一小兒匙宛
- 「ケレオソット」 一〇—三〇
- 肝油 一五〇〇
- 右一日二回(食後)一茶匙宛

- 「ケレオソット」 一・五
- 扁桃油 三〇〇
- 護謨末 二〇〇
- 扁桃舍利別 二〇〇
- 右作乳劑、一日三回乃至四回一小兒匙宛
- 炭酸「ゲアヤコール」 〇〇・五—一〇・五
- 白糖 〇・四
- 右爲一包、一日三回食後一包宛
- 「シロリン」若クハ「シラン」 一
- 右一日一茶匙乃至二茶匙乃至四茶匙宛
- 炭酸「ケレオソット」 〇四—二〇
- 卵黃 一個
- 桂皮水 七〇〇
- 右一日數回二日ニ分服



左ニ掲グル灌腸法ヲ試ムルコトアレバ、原來「ケレオソート」ノ處方種々アルニ係ハラズ、幼稚ナル小兒ハ之ガ服用ヲ好マズ使用困難ナリ、少シク高價ノ嫌アルモ使用上ニ於テハ炭酸、グアヤコール「ラ」最モ便易トス

- 「ケレオソート」 一〇〇—二〇〇
- 扁桃油 二五〇
- 卵黃 一箇
- 鹽水 二〇〇〇〇
- 右四回ノ灌腸料

腸胃呼吸器等ノ症狀アルキハ殊ニ注意シテ之ガ治療ヲ施スベシ、其他腺、眼、骨等ノ疾病ハ宜シク其條下ニ就テ見ルベシ

### 〔二〕英吉利病 佝僂病 Rachitis

本病ハ骨質發生及軟骨ノ化骨作用ニ障害ヲ起シ骨質及軟骨ノ石灰減少若クハ消失ヲ來ストコロノ疾患ニシテ其原因ニ就テハ未ダ定論ナシ或ハ食料中石灰分ノ不足ト云ヒ或ハ石灰吸收不足ヲ唱へ、或ハ石灰

新陳代謝機能障害ヲ論ジ、又ハ胸腺ノ機能障害ヨリ發スルモノトシ諸説未ダ歸一セズ、大人ノ骨軟病(ラステヲマラチー)亦本病ト同病ナリト説ケリ、歐洲ノ小兒ニ在テハ極メテ多キ病ナレドモ本邦小兒ニハ稀有ナル疾病ナリ、明治卅九年富山縣下ノ山間村里ニ於テ本病發生ヲ證明セラレタルコトアリ、其原因、症候等ハ爰ニ略ス  
腺病治療法ノ如ク藥劑療法ノ他、攝生法甚ダ緊要ニシテ、滋養強壯ノ食物ヲ撰與シ新鮮ナル空氣ニ遊バシメ、居住ハ換氣ヲ良クシテ日光ヲ受ケ、寒濕ナラズシテ温暖高燥ナルヲ最モ佳トス、專用ノ藥劑ハ鐵、肝油、石灰、磷等ニシテ兼ネテ浴治法(鹽浴、カミツレ浴等)ヲ試ム可シ

- 還元鐵 〇〇三—〇〇五
- 白糖 〇・三
- 右爲一包、一日二回一包宛
- 沃度化鐵舍利別 各一五〇
- 單舍利別 各一五〇
- 右一日三回十滴乃至十五滴宛
- 磷酸 〇〇一
- 甘扁桃油 二〇〇
- 「アラビヤ」護膜末 各一五〇
- 白糖 四〇〇
- 右作乳劑、一日一回乃至二回 一茶匙宛

- 鹽酸鐵丁幾 一〇〇〇
- 右一日三回八滴乃至十滴宛
- 肝油 八〇〇
- 右一日二回乃至三回一茶匙宛
- 石灰末 各三〇〇
- 縮水
- 右毎日牛乳ニ混和シテ用フ

下肢屈曲ノ強弱及ビ時期ヲ察シテ畸形療法ヲ施スコアリ

〔三〕バルロウ氏病 Morbus Barlowi

本病ハメルレル (Möller 1859) ガ之ヲ急性「ラヒーチス」トシテ報告セシニ始マリバルロウ (Barlow, 1883) ニ由テ臨床的症狀ノミナラス病理的變狀ヲ詳細ニ報道アリシト共ニ同氏ハ之ヲ「スコルブート」ト認メ營養療生ヲ唱ヘタリ、其後一八九七—一九〇三年ノ間ニ多クノ學者ニ由テ本病ニ關スル細密ナル病理的變化ヲ公ニセラレテ吾人ガ今日ノ本病ニ對スル知識ヲ得ルニ至レリ即チ本病ハ一年未滿ノ小兒ヲ多ク侵シ其主トシテ變狀ノ發スル部分ハ長骨々端ノ骨端軟骨ニ接近セル部ノ骨

髓、炎、ニシテ其症狀多少大人ノ「スコルブート」症ニ類似ス

病原未ダ不明ナリ、小兒ノ不適當ナル及不充分ナル營養及新鮮ニアラザル煮沸セル牛乳ニ諸家多クハ疑ヲ措ケリ、風土、季候等ニ關係アリヤ否未ダ判然セズ

其他小兒體質ニモ亦關係アルガ如シ(雙兒ニシテ同一牛乳ニ養ル、ニ係ナズ甲兒本病ニ罹リ、乙兒健康ニシテ發育佳良ノ例アリ)貧富ニハ著シキ差別ナシ、人乳ニ依レル小兒ニモ本病ヲ發セル報告アレモ議論アリテ疑フモノ多シ、一般ニ人工養育法ニ依レル者ニ發スル疾病ト認メラレ、

**症候**

發病徐々ニシテ漸々貧血ヲ現ハシ多クハ初メ輕熱ヲ發シ、身體殊ニ下肢ヲ動かセバ啼泣シテ疼痛アル狀ヲ呈シ、自動モ漸々成サマルニ至ル、其疼痛部ヲ細カニ檢探スレハ多クハ下肢長骨々端部ニ在ルヲ認ムベシ、同時ニ生齒セル若クハ正ニ生齒アラントスル齒、齦、腫脹、疼痛、暗赤色、及出血ヲ發ス、骨ノ疼痛性腫脹ハ上腿骨下端若クハ下腿下端ニ存在スルヲ最モ多シ、或ハ上腿及下腿共ニ之ニ罹ルコトアリ、一側ノ

モノアリ、或ハ兩側ノ者アリ、時トシテ上下肢長骨々端共ニ腫脹疼痛ヲ發スルコアリ、腫脹ハ實際骨質ニ存スルノミナラズ、骨膜下出血ヲ兼スルニ由ル、其他時トシテ皮膚粘膜等ニ血點ヲ發スルコアリ、稀ニハ血便、血尿、筋出血等ヲ起シ往々脾ノ肥大ヲ認ムルコアリ、血液検査ニ就テハ貧血症ノ變常ヲ認ムルノミニシテ特別ナル異狀ナシト

經過ハ慢性ナリ十數日―三、四週日ヲ經テ症狀稍々著明トナルベシ而シテ治癒スル者アリ、或ハ下痢著クハ肺炎等ヲ併發シ死亡スル者アリ

**療法** 營養ヲ改良スレバ殆ンド藥劑ヲ要セズシテ治癒ス、牛乳ハ成ルベク短時ノ煮沸ニ改メ或ハ若シ信ズベキ牛乳アレバ煮沸スルコヲ廢スベシ、歐米ニテハ牛乳ノ傍ラ生肉汁(一日二―三茶匙)ヲ唱用ス新鮮ナル果汁(白糖ヲ加味ス)ハ殊ニ本病ニ偉効アリ

「サルヴルサン」注射ヲ試ムベキモノ乎

疼痛アル局部ニハ濕布ノ罨法ヲ行フベシ

### 〔四〕貧血症

Anaemia

血液ノ比較的赤血球及血色素ニ乏シキ(Oligocythaemie und Oligochrohaemie)場合ヲ、通常貧血症ト云フ

小兒ノ血液ハ胎生ノ初期未ダ白血球ノ存在セザル前已ニ血色素ヲ有スル大ナル核アル血球ヨリ成レリ、胎生三ヶ月ノ終リマデハ血液造成所ハ血液自身ナルモ、其後ハ大ナル核ヲ有スル赤血球消滅シ、血液モ亦血球ヲ造成セズ、脾臟及骨髓之ニ代ル、而シテ此二箇ノ内臟ニ由リ白血球モ亦造成セラル、モ、特リ赤血球ハ骨髓ノミニ由テ成形セラル、分娩後モ此作用ハ繼續セラル、骨髓中ニハ多數ノ有核赤血球存在シ、爰ニ其核消滅シテ始メテ無核赤血球ト成テ血行ニ入ル

胎生期及生下第一過ニ存在セル有核赤血球ハ初生兒ノ發育ニ順ヒ漸次消滅ス

小兒ノ血量ハ初生兒ニ在リテハ體重ノ一四、四分ノ一、六―十六年ノ者

ハ體重ノ一四、七分ノ一ナリ(大人一九分ノ一)  
 初生兒ノ血液ハ一立方密迷ニ七—八「ミルリヲン」(「ミルリヲン」ハ一百万ナリ)ノ赤血  
 球ヲ有スレモ、生下十四日間ニ著シク減ジテ成長ノ小兒ト稍、同様ノ數  
 トナリ、四<sup>1</sup>/<sub>2</sub>—五「ミルリヲン」ニ減少ス  
 白血球モ亦初生兒ノ血液中ニハ成長兒ニ比スレバ多數ナリ、生下第十  
 日頃ヨリ第一年ノ終リマデハ、一立方密迷中一〇〇〇乃至一四〇〇  
 〇ヲ算スレモ、成長兒ノ血中ニハ其數七〇〇〇乃至一〇〇〇〇トス、而  
 シテ生下初一年間ハ其<sup>3</sup>/<sub>4</sub>乃至<sup>2</sup>/<sub>3</sub>ハ大正不同ノ一核白血球ト、残り<sup>1</sup>/<sub>3</sub>ハ  
 骨髓ニ由テ造成セラル、多形核白血球ヨリ成レリ、即此比例ハ全ク大  
 人ノ血液ニ反對セリ  
 小兒血液ノ大人ニ比シテ著シキ相違點ハ、漸々年齢ノ進ムニ從ヒ、減少  
 シ、其四年乃至五年ニ達セバ大人ト稍、大差ナキニ至ル  
 小兒ノ貧血ヲ論ズルニ當テ病牀實驗上、其年齢ニ由リ症狀竝ニ輕重同  
 一ナラザレバ、之ヲ年齢即三ツノ小兒期ニ區別シテ論述スルコト適當ナ

〔甲〕哺乳兒及幼兒ノ貧血症 (Anæmia infantum,

Anæmia splenica, Anæmia infantum pseudoleukæmica)

ルガ如シ其最終小兒期ノ貧血症ハ大人ノ同症ニ概略同様ナル症狀ナ  
 レバ特ニ茲ニ論ズルヲ省略シ、初期即哺乳兒及幼稚ナル小兒ノ貧血症  
 ト中期即第二生齒期以後ナル學齡兒ノ貧血症トヲ左ニ論ゼントス

**原因** 多クハ急性ナル或種ノ腸疾患ヨリ繼發シ、或ハ先天微毒及結  
 核等ニ發ス、時トシテ此種ノ傳染病兒ノ年齢第一年ノ末、又ハ、第二年ノ

初メニ脾臟肥大ヲ兼ネタル重キ頑固ナル本症ヲ繼發ス、(Anæmia splenica  
 又 Anæmia infantum pseudoleukæmica 脾性貧血又ハ嬰兒假性白血病性貧血症)

**症候** 消化器病、微毒結核等ノ爲ニ營養障礙ヲ兼スル者アリ、或ハ營  
 養ニハ著シキ障礙ナクシテ皮膚及粘膜ノ紅色ヲ失シ蒼白トナリ、倦怠、  
 疲勞ノ兆ヲ發シ、心臟及血管ニ雜音ヲ發ス、單一ナル症ハ豫後多クハ佳  
 良ナリ

脾性貧血症ハ生來虛弱ノ者ニ漸々發スルコアリ、或ハ普通哺乳兒ノ如ク異常ナキ者、齡一年ノ末ニ至リ急性腸胃症ニ罹リ、或ハ氣管枝加答兒或ハ種痘ノ後始メテ貧血ノ徵ヲ現ハスコアリ、或ハ斯ノ如ク疾病ニ罹ラズシテ急性ニ貧血ヲ起ス者アリ、人工營養兒ニ多キガ如キ疑アリ、本病患者ハ多クハ孱弱ニシテ歩行、起立等遲延セル者多シ、此症ハ貧血アルノミナラズ脾臟著シク肥大シ、時トシテ臍部或ハ其以上ニ達スルコアリ、肝臟ハ同時ニ腫大セルコ多ケレモ一定シタル症候ニアラズ、消化機症狀トシテハ下痢ヲ兼ネル者アリ、或ハ便秘スル者アリテ定マラズ、大切ナル症候ハ血液ノ異常ニシテ、即赤血球ハ著シク減少シテ平均三—三五「ミルリヤン」ニ下リ (Oligozythemic) 白血球ハ通常増加スル(甚シカラズ)モ一五〇〇〇ノ上ニ出ヅルコ少シ、血色素ハ健康血液ノ三〇—三五%ニ減少ス(Oligochromämie) — 鏡檢ニテハ重症貧血患者ノ如キ血液變化ヲ認ムベシ、(即赤血球ニ在テハ變形ヲ起シ大小不同トナリ (Poikilocytosis)、有核球其中ニ混ジ、又赤色鮮明ナラザルモノアリ、又著シキ巨大球

アリ、白血球ニ在テハ多形核ノモノ多ク、又大ナル白血球其中ニ混ズ) 經過ハ甚ダ慢性ニシテ數月或ハ年ヲ重スルコアリ、豫後ハ必ズシモ不良ナラズ

**療法**

食餌攝生ノ整理變換ハ最モ必要ナルカ如シ、人乳若クハ牛乳ノミニテ其他ノ食物ヲ必要トスル時機ヲ超過スルモ轉食ゼシメズ繼續シタル場合ニ往々貧血ヲ記スコアリ、故ニ本病ニハ先ヅ以テ牛乳ノ傍ラ(牛乳一日五〇〇—七五〇瓦腸胃ノ堪ヘ得ル他食(スープ、青キ野菜、馬鈴薯、莢豆等ヲ適當ニ調理セルモノ又ハ年齡ニヨリ、卵、細截セル肉、肴等)ヲ與フルコ緊要ナリ) 藥劑ハ鐵「フオーレル」水等ヲ撰用スベシ、サル「ヴッルサン」モ亦試ムベキ一法ナラン乎、同時ニ海濱又ハ山林ノ空氣清潔ナル地ニ保養スルコ亦有効ノ療法トス

**〔乙〕第二小兒期ノ貧血症**

皮色蒼白ナルガ上ニ、食慾不進、頭痛、疲勞シ易キ、倦ミ易キ等ハ此年齡兒ニ於ケル多發ノ症候トス、其他便秘ヲ訴フル者多シ、内臟ニハ異常ヲ認メズ、唯ダ心尖及心底ニ雜音ヲ聽クコト多シ、尿中間々「インヂカン」排泄ノ増進ヲ認ムルコトアリ、時シテ起立性ノ蛋白ヲ認ム

此年齡ニ於ケル貧血兒ノ血液検査ハ未ダ充分ナラズ、小數ノ試験ニ依レバ前記哺乳兒ニ於テ觀ルガ如キ著明ナル變化ハ認メラレズ、有核赤血球ハ殆ド發見セラレズ

**療法**

主トシテ滋養強壯ノ食物ヲ與ヘ、適宜ノ運動遊戯ヲナサシムベシ、家屋ハ換氣充分ニシテ、良ク日光ヲ受ケ、兼ネテ温暖ナルヲ最良トス、學校等ニ就學セル者ニ在テハ、休業中、山、林、海濱等ヲ撰ンデ旅行セシメテ大ニ效アリ、歐洲ニ於テハ、近時漸ク學校兒童ヲ旅行セシムルノ(休業旅行ヲ稱ス)風、隆盛ニ赴キ、各地皆良成績ヲ得ルニ至レリ、藥劑ハ大抵鐵「フオーレル」水等ナリ

近時血色素ノ製劑ヲ唱用スル者アリ

- 還元鐵 〇〇三—〇〇五
- 鹽酸規尼涅 〇〇三
- 白糖 〇〇三
- 右爲一包、一日三回一包宛
- 含糖炭酸鐵 〇〇三—〇〇四
- 白糖 〇〇三
- 右爲一包、一日三回一包宛
- 乳酸鐵 〇〇四
- 白糖 〇〇三
- 右爲一包、一日二乃至三回一包宛
- 含糖沃度化鐵 〇〇三
- 白糖 〇〇三
- 右爲一包、一日三回一包宛
- 沃度化鐵舍利別 各一五〇
- 單舍利別 右一日三回十滴乃至十五滴宛

- 鹽酸鐵 一〇〇
- 右一日三回八滴乃至十滴宛
- 林檎酸鐵丁幾 一五〇
- 右一日三回十滴宛
- 枸橼酸「アンモニア」加燒性磷酸鐵 一・五—二・五
- 餾水 八〇〇
- 單舍利別 二〇〇
- 右十回ニ分服、一日三回宛
- 可溶含糖鐵 二〇〇
- 右一日二回乃至三回一刀尖
- 「フェルラチン」 〇・一—〇・五
- 右一日量
- 「フオーレル」水 二〇〇
- 餾水 八〇〇
- 右一日三回三滴乃至十五滴宛

[五] 惡性貧血症

*Perniciöse Anaemie*

此病ハ小兒ヲ侵スコ極メテ稀ニシテ、僅少ナル報告ニ依レバ其症狀等略大人ノ同病ト大差ナシ——鑑識ニハ血液検査ヲ行フコト最モ緊要ナリ——豫後ハ不良ナリ——療法ハ一般貧血症ノ條下ヲ見ルベシ

[六] 萎黃病

*Chlorose*

本病ハ或ハ臟器ノ先天性解剖的異常殊ニ心臟ノ先天性萎小ナルト、血管ノ狹隘ナルコト、其一因ナルガ如シ、春機發動期ニ多ク起リ本病ト何等ノ關係アラシ乎、孱弱ナル者、心勞不良ナル食物及居住、運動不足等之ガ誘因トナリ、其他遺傳ニ由ル者アリ  
本病ノ症狀ハ大人ト略同一ニシテ大差ナケレバ爰ニ之ヲ論ゼズ  
療法ハ貧血症ノ治療法ト略同一ナレバ其條下ニ就テ見ルベシ

[七] 出血性病

*Hæmorrhagische Diathese*

出血シ易キ疾患ハ續發症トシテ實布的里、先天微毒、腐敗熱、或ハ白血病等ニ見ルコトアレハ爰ニ論ズルモノハ他患ニ關係ナキ即特發症ニ限ルベシ、之ニ二大別アリ、甲ハ著明ナリ遺傳性ニシテ血友病之ナリ、乙ハ一時性病ニシテ紫斑病、發作性色素尿、バルロー病、スコルブト等ニ屬ス

[甲] 紫斑病

*Purpura*

紫斑病トハ皮膚及皮下組織或ハ之ト同時ニ粘膜及内臓ニ自然ノ出血ヲ起ス所ノ疾病ニシテ之ニ單純紫斑病 *Purpura simplex* 出血性紫斑病 又ウエル、ホーフ氏病 *Purpura hæmorrhagica s. Morbus maculosus Werlhoffi* 儂麻質斯性紫斑病 *Purpura rheumatica s. Peliosis rheumatica* 惡性紫斑病 *Purpura fulminans* ト稱スル數症アリ、斯ノ如ク數種各其症狀ヲ異ニシ、全ク別種ノ疾病ノ如キ觀アリト雖又時トシテ互ニ其症狀ヲ混合シ、其種別ヲ立

ツルヲ能ハザルコアリ、果シテ別種ノ疾患ナルヤ或ハ一病ニシテ種々程度及局部ヲ異ニシ、發シタル症狀ニ過ギザルカ未ダ其病理詳ナラズ、今便利上之ヲ種別シテ左ニ論ス

〔イ〕單純性紫斑病及ウェル、ホーフ

氏病 *Purpura simplex et Morbus maculosus Werlhofii*

症候

單純紫斑病ハ皮膚ニ出血ヲ起シ、其小ナル者ハ小蟲ノ刺點ノ如ク、大ナル者ハ帽針頭大乃至櫻實核大ノ圓形若クハ長形ノ血點若クハ血斑ニシテ、或ハ互ニ合併シテ種々ノ形狀ヲ取り、一時ニ發スル者アリ、或ハ毎日多少ノ新斑ヲ發シ僅カナル時日ヲ經テ多クハ治癒スル者ナリ、而シテ其間多クハ發熱及其他ノ症狀ヲ起スコナシ  
前記ノ皮膚出血ニ更ニ皮下出血及粘膜出血ヲ合併スルキハ之ヲ出血性紫斑病即ウェル、ホーフ病ト稱ス、此症ニ在テハ皮膚ノ出血多クハ一時ニ發シ、粘膜ニハ殊ニ鼻粘膜(血)齒齦(血)ノ出血ヲ多シトス、時トシテ勝

膀胱腎臟、胃腸、氣道、外聽道、結膜等ノ出血ヲ起スコアリ、又時トシテ腎炎ヲ併發ス

本病ノ經過ハ輕キ者ハ二、三週日ニシテ治スルモ、重キ者ハ數月若クハ十數月ニ亙ルコアリ——全身症狀トシテ神思不和、倦怠、食思減退等ナリ、發熱スルコトハ少ナシト雖モ出血ノ強弱ニヨリ全身症狀モ亦輕重アルベシ

原因

慢性腸加答兒、結核等ノ如キ著シク身體ヲ衰弱ニ陥ラシムル疾病ニ罹リ衰弱セル者、虛弱、貧血ノ者、衛生上及營業上ニ就テ不適當ナル生活狀態及傳染病ニ罹リタル病後ノ者等ハ本病ニ罹リ易ク六、七年以上ノ者ニ多シ、氣候及季節ハ本病ニ著シキ關係ナシ——血液及小血管ノ検査成績ハ一定セズ——直接ノ原因ハ全ク不明ナリ

豫後

ハ概シテ佳良ナリトス、然レモ出血ノ多キ者、屢、出血ヲ起ス者、合併症ヲ兼ネタル重症ニ至テハ甚ダ疑シトス——症候的ノモノハ素ヨリ其主病ニ由ルベシ



療法

先づ攝生法ニ注意シテ滋養強壯ノ食物ト新鮮ナル野菜及果物ヲ適宜ニ撰與シ、居住ハ成ルベク清淨ニシテ換氣ヲ良クスベシ、輕症ナル者ハ別ニ藥劑ヲ要セズ、靜ニ臥牀ニ在ルノミニテ可ナリ

先づ臥牀ニ靜養セシメ、症狀重キハ前法ノ他ニ更ニ植物酸、鑛酸、格魯兒化鐵液、麥角等ヲ撰用スベシ

- 稀鹽酸 〇・五
- 〇水製麥角越幾斯 一・〇
- 縮水 八〇〇
- 阿片丁幾 八〇〇
- 覆盆子舍利別 二〇〇
- 阿片丁幾 三滴
- 右一日四回一小兒匙宛
- 橙皮舍利別 二〇〇
- 〇枸橼酸 〇・四
- 右每二時一茶匙乃至一小兒匙宛
- 縮水 八〇〇
- 覆盆子舍利別 二〇〇
- 右一日四回一小兒匙宛

衄血強ケレバ、タンポンヲ要スルコアルベシ、腸胃ノ出血、氣道ノ出血ニハ、ゲラチンノ注射(一〇%ノモノヲ二〇—四〇立仙若クハ内腹三—五%液ヲ每二時一茶七ツ)、血清馬、兔、人等ノ注射(一〇—二〇立仙等ヲ

試ムベシ、局處藥トシテ「アトレナリン」モ試用スヘキ藥劑ナリ

病後ハ空氣清淨ナル山間等ニ遊バシメ、冷水洗拭法ニ慣レシムベシ、而シテ漸時強壯劑ヲ投ジ、兼ネテ新鮮ナル果實、野菜等ヲ用フルヲ良トス

〔口〕 儂麻質斯性紫斑病

*Purpura rheumatica*

症候

本病ハ粟粒大或ハ之ヨリ稍大ナル紫斑ノ發スルト同時ニ關節ノ疼痛、腫脹ヲ起スヲ以テ特異トス、紫斑ハ病毒ガ好ンデ侵ス所ノ膝關節及足面節ノ周圍及下腿、上肢等ニ發シ、他ノ部分ニハ稀ナリ、腫脹セル關節ハ自然ニモ疼痛シ、動作壓迫ニ由テ疼痛増劇ス、又脛骨及内外髁ニ疼痛アリ、時トシテ同時ニ結節性紅斑(Erythema nodosum)、多形性滲出性紅斑、蕁麻疹等ヲ合併スルコアリ、發病ノ初期、微熱、四肢疼痛、神思不安、腸胃症等ノ症狀ヲ發スル者多シ、熱ハ弛張性ニシテ午後ニ高ク、時トシテ脾臟ノ肥大ヲ認ムルコアリ、粘膜炎出血ハ通常此症ニ發セズ

經過中浮腫ヲ發スルコアリ、殊ニ下肢、陰囊、肘關節、眼險等ニ於テ之ヲ觀

ルモ尿中蛋白ハ認めラレズ  
経過ハ時トシテ數週或ハ數月ニ互ルコアリ、本病ハ屢再發スルコアリ、殊ニ恢復期ノ攝生ノ嚴ナラザル場合ニ多シ

**豫後**

ハ概シテ良ナリ

**療法**

ハ前記ノ甲症ト略ボ同一ナリ而シテ本病ハ前記(甲症)ノ症ニ比スレバ小兒ニ發スルコ稀ナリ

**〔ハ〕腹性紫斑病**

(P. abdominalis)

此症ハ一八七四年ヘーノッヒガ詳細ナル報告ニヨリ一般ニ知ラレタルモノニシテ一名ヘーノッヒ氏紫斑病トモ稱セリ、多クハ小兒ヲ侵シ、症狀ハ初メ痲麻質斯性紫斑症狀ヲ發シ次テ腹痛(時トシテ劇甚ナル)、食慾不進等ノ「ヂスベプシー」症狀ヲ併發ス、發作後血便ヲ排泄ス、屢腸出血ヲ起シ、又嘔吐スルコアリ、發熱アルモ多クハ卅八度五分以下トス、豫後ハ一般ニ佳良ナリ

**〔ニ〕惡性紫斑病**

Purpura fulminans

本病ハヘーノッヒノ初メテ報告セル極メテ急性ナル疾病ニシテ僅ナル時間ニ上下肢ニ紫色斑ト皮下ノ血液浸潤等ヲ發シ時トシテハ同時ニ血性漿液性水疱ヲ合發シ、著シキ合併症ヲ發スルコナク十二時間乃至二四時間或ハ四、五日ヲ經テ死亡ス——解剖所見ニ貧血症狀ノ他ハ總テ陰性ナリ

**〔乙〕血友病**

Haemophilic

**原因** 本病ニ大切ナルハ遺傳ニシテ、グランヂ、ヴェル氏ノ調査ニ依レバ、血友病血族ノ女子ヨリ其子孫ニ傳フルコ多ク、然レモ之ニ罹ルモノ男兒ヲ多シトス——此病ノ病理ハ未ダ詳ナラズ  
ザーリーノ報告ニヨレバ本病ノ原因ハ血管及血球ニ在テ即兩者ガ血液凝固ヲ助成スル成分「トロムブキナーゼ」(Thrombkinase)ヲ產出スルコ

ノ減退ニアリ、若シ此病的血液ニ健全ノ血清若クハ「トロムブキナーゼ」ヲ加入スルキハ直ニ凝固ノ起ルコトヲ試験ニ由テ證明セリ(Zeitschr. f. kl. med. 1905. Bd. 52.)—發症最初ノ時期ハ二歳ヲ多シトス、廿二歳ニ於テ初メテ發スル者ハ甚ダ稀ナリ

**症候**

本病ノ症候ハ出血ニシテ、自然又ハ外傷(其輕微ナルニ係ハラズ)ニ由テ起リ容易ニ止マラズ、數日、數週ヲ經過スルコトアリ、或ハ全ク止血スル能ハズシテ遂ニ之ガ爲ニ斃レ、皮膚ニ在テハ血斑若シクハ皮下溢血トナリ或ハ口、鼻、胃腸、腎、生殖器等ニ又出血スルコトアリ、屢々關節ニ出血ス、時トシテ脾臟ノ腫大ヲ認ムルコトアリ、出血ノ模様ハ漸々染ミ出ルガ如キ出血ニシテ迸出飛散スルニアラズ、合併症ハ溢血ノ化膿腐敗、壞疽、關節腫脹又滲出等ナリ、本病ハ時トシテハ小兒ノ成長スルニ從ヒ輕快シテ漸々出血スルコトノ稀有トナリテ高齡ニ達スル者アリ豫後ハ疑團ニ屢シ小兒ノ幼稚ナルダケ不良ナリトス、本病患者ノ六〇%ハ八歳以内ニ死亡スト(リッテニ氏)

**療法**

血友病血族ノ者ハ殊ニ外傷ヲ防グコトニ注意スベキハ勿論ニシテ、攝生、榮養等亦大切ナリトス、冷拭法、冷浴、體操法等ヲ行ヒ之ニ慣レシムルコト甚ダ有益ナリトス——本病ノ止血療法トシテ使用スルモノハ副腎製劑「ゲラチン」、血清及「ペプトーン」、等ナリ、「アドレナリン」ハ一%液ヲ卷法トシ或ハ内服セシムルコトアリ、「ゲラチン」ハ一〇%液ヲ卷法トシ又ハ二〇—四〇立仙ヲ皮下ニ注射ス、血清ハ馬、兎、人ノ新鮮ナルモノヲ(八日以内ノ)ヲ皮下若クハ靜脈注射ヲ行ヒ(一〇—二〇立仙)或ハ「デフテリア」血清ヲ使用スルコトアリ、血清ヲ數回注射セル例アリ(「アナフヒラキシ」ノ危険アルヲ忘ル可ラズ)、「ペプトーン」ハ五%ノウヰウヰテ氏「ペプトーン」ヲ(食鹽水ニ溶解)一〇—二〇立仙皮下若クハ靜脈注射ヲ行フ

**〔八〕 儂麻質斯**

Rheumatismus

筋及關節儂麻質斯ニ論ナク温暖ナル一室ニ靜臥セシメ、消化シ易キ食物ヲ與ヘ「フランネル」ヲ纏ハシメ以テ感冒ヲ豫防スベシ

専用ノ内服薬ハ水楊酸曹達、「アスピリン」、「アンチピリン」、「ザリピリン」、「ザロール」等ニシテ慢性ニハ専ラ沃度加里ヲ試用スベシ

- 水楊酸曹達 〇・二〇〇・三
- 白糖 〇・四
- 右爲一包、毎二時一包宛(「オプ
- ラート」ニ包ムベシ)
- 水楊酸曹達 三〇―五〇
- 縮水 八〇〇
- 橙皮舍利別 二〇〇
- 右毎二時一小兒匙宛
- 「アンチピリン」 一〇―二〇
- 縮水 一〇〇〇
- 單舍利別 二〇〇
- 右毎二時一小兒匙宛
- 「ザロール」 一〇
- 縮水 一〇〇〇
- 單舍利別 二〇〇
- 右毎二時一小兒匙宛
- 沃度加里 二〇
- 縮水 一〇〇〇
- 單舍利別 二〇〇
- 右毎三時一小兒匙

關節疼痛、腫脹等ヲ起セバ冷罨法ヲ施シ、時トシテ壓迫繃帶ヲ施スコアリ、若シ筋肉ニ疼痛ヲ發セバ宜シク温罨法ヲ施シ病勢ニ由リ乾角ヲ貼スルコアルベシ

〔九〕白血病

Leucemie

白血病ハ漸次白血球ノ増加ト共ニ異常ナル白血球(一核ヲ有スル中性酸性及鹽基性顆粒白血球)ノ混在及赤血球ノ減少ヲ來ス所ノ全身病(白血球ノミ増加スル者アレバ之ト本病ヲ誤認ス可カラズ)ニシテ、其病理ハ脾、淋巴腺、腸濾囊及骨髓等諸器ニ成形過多ノ變常ヲ起スニアリ、而シテ其際専ラ病的變常ノ作用ヲ營ム所ノ機官ニ由テ、脾臟性、淋巴性、骨髓性等ノ別稱アリ、然レモ此三種ノモノ必ズシモ特發スルニアラズ、互ニ合併スルコト屢アリ

本病ハ小兒ノ年齢ニ係ハラズ成長シタル者ニモ又乳兒ニモ發スレモ概シテ二年以上ノ者ニ多キガ如シ、又男兒ニハ女兒ヨリモ多ク、原因ハ不明ナリ、遺傳親ノ微毒「ラヒーナス」慢性腸加答兒、重キ麻刺利亞、外傷等本病ノ原因トナルコトアリ

血液ハ淡薄色ニシテ帶黃赤色ヲ呈シ、少シク溷濁シ、凝結少シク緩慢ナ

リ、白血球ハ著シク増加シ、一立方密迷ニ一〇〇〇〇〇—三〇〇〇〇〇  
 或ハ其以上ニ上リ、白血球ト赤血球ノ比例一ト三、若クハ一ト二、更ニ甚  
 シキニ至テハ一ト一ニ達スルコトアリ、白血球ノ性質ハ前記一核ヲ有ス  
 ル顆粒アル者、(neutrophile, eosinophile, basophile einkernige Granulirte Leukoeyten.)  
 其他ニ一核ヲ有スル大ナル或ハ小ナル顆粒ナキ白血球ノ多數ヲ認ム  
 ベシ (Lymphocyten.) 一説ニ依レバ淋巴性ノ者ハ白血球小ニシテ一核ヲ  
 有シ「プロトプラスマ」菲薄ナリ、脾臟性ノ者ハ白血球大ニシテ顆粒アリ、  
 骨髓性ノ者ハ更ニ巨大ニシテ脂肪球ヲ含有ス  
 症候ハ大人ト大差ナケレバ爰ニ略ス、經過ハ多クハ一年餘ニシテ、轉歸  
 ハ死亡ヲ常トス

療法

間歇熱、腸加答兒腺病、ラヒーチス、微毒等ノ諸病ニ注意シ而シ  
 テ滋養強壯ノ食物ヲ與へ、新鮮清潔ナル空氣ニ遊バシメ以テ攝生ヲ嚴  
 ニスベシ

内服藥ハ鐵、規尼涅、砒酸、沃度等ノ諸劑ヲ專ラ施用ス

○鹽酸規尼涅

乳酸鐵

各〇〇四

白糖

〇〇四

右爲一包、一日三回一包宛「オ  
 プラート」ヲ用フベシ」

○沃度鐵舍利別

單舍利別

各二〇〇

右一日三回十滴乃至十五滴宛

○還元鐵

鹽酸規尼涅

各〇〇三

白糖

〇〇四

右爲一包、一日三回宛

○「フォーレル」水

薄荷水

二〇〇

右一日三回三滴乃至十五滴  
 宛

其他脾臟摘出法、輸血法等ヲ試ムルコトアルベシ、宜シク外科書ニ就テ見  
 ルベシ

「サルヴッサン」ヲ試ミ偉効アリシ報告アリ (Munch. med. wochsch. No 27. 1912.)  
 レントゲン電光ノ脾臟及骨髓ニ對シ良効アルノ報道近年ニ至リ増加  
 シ甚ダ有望ナルガ如シト雖モ、其本病ヲ根治セシムルヤ否未ダ確實ナ  
 ラズ

〔十〕假性白血病

Pseudoleukämie

假性白血病ハ一ノ全身病ニシテ、淋巴性諸器ニ形成過多ノ變常ヲ起ス  
トハ眞性白血病ト同様ナレド、其血液ノ變狀ニ至テハ全ク之ト相同ジ  
カラズシテ、即赤血球減少シ白血球ハ増加セザルヲ常トス、然レド時ニ  
或ハ僅ノ増加ヲ起スコアリ

**原因** 本病ノ原因ハ略ボ眞ノ白血病ト同一ナリ、而シテ又間歇熱、微  
毒、ラヒーチス、腺病、赤痢、及腸加答兒、耳漏、慢性鼻加答兒等之ガ原因トナ  
ルコアリ

**症候** 病狀即發病及經過ノ模様、時トシテ急性ノ發病アリテ、高ク發  
熱スルト、脾臟及淋巴腺ノ變狀患者ノ衰弱ニ陥ルコト、合併症及歸轉等ノ  
症狀ハ眞性白血病ト略ボ同様ナリ  
經過ハ眞ノ白血病ヨリモ多少速ナルモ猶ホ數月若クハ十數月ニ互リ  
死ニ至ルヲ常トス

**療法** 本病ノ治療法ハ眞性白血病ト同一ナレバ其條下ヲ參照スベ  
シ、蓋シ亞砒酸劑ハ諸劑中最モ効アルガ如シ

### [十一] 脂肪過多症

*Lipomatosis universalis*

成熟セル初生兒ハ既ニ比較的肥滿セリ、之ヲ大人ノ其脂肪ト體量ノ比  
例五—六%ニ對シ九—一八%ノ多キニ居レリ、然レド本病ハ大人ニ於  
ケルヨリモ小兒ニハ遙カニ稀有ナリトス

原因ハ就中先天性素因最モ關係アルガ如シ、フシヤールハ本病患者百名  
中血族中同病アルモノ四十六名、チャムバースハ本病患者三十八名中二十  
二名ハ親族ニ同病アリシコトヲ報告セリ、其甲状腺、生殖器腺等ノ異常ヨ  
リ發病スルノ議論アリ

### [十二] 糖尿病

*Diabetes mellitus*

此病ハ腸内ニ於テ含水炭素及糖ヲ消化セシムル機能ニ就テハ異常ナ  
キモ血中ニ至レル葡萄糖ヲ酸化セシムルノ機能ヲ失ヒ空シク血中ニ  
多量ノ糖ハ集滯シ、尿ニ由テ排泄セラク、疾病ナリ、小兒ニ發スルコト稀

ニシテ、多クハ重症ニシテ十歳以上ノ者ニ發ス  
哺乳兒尿ヲ屢、検査セル者ハ往々糖ノ反應ヲ認ムルコアルベシ之レ多  
クハ一時性ノモノニシテ本病トハ毫モ關係ナク、乳糖ヨリ起レルモノ  
ナリ

本病ハ小兒ニ發スルコト稀ナリ、豫後ハ不良ナリトス、成長兒ノミナラズ、  
哺乳兒ニモ亦本病ヲ發スルコトアリ

**療法**

大人ト均シク糖化スルノ性分ヲ含ム食物(米、麥、蕃薯等)ヲ可及

的禁ジ、專ラ牛乳、獸肉、魚肉、肉煮汁、鶏卵、綠色ノ蔬菜等ヲ與フベシ  
大人ニ稱用セラル、カル、ス、泉鹽ハ小兒ニ在テハ效ナキガ如シ、故ニ  
本症ニ在テハ攝生法ヲ以テ治療ノ主眼トス、若シ止ムヲ得ズ藥劑ヲ要  
セバ阿片ヲ試ムベシ然レ便秘等ヲ起シ久シク連用セシムルコト能ハズ

○阿片丁幾

五滴

縮水

六〇〇

單舍利別

一〇〇

右每三時一茶匙宛

**[十三] 單尿崩症**

Diabetes insipidus

腎臟機能缺損ノ爲ニ發スル疾患ニシテ實ハ腦下垂體(前部及後部ノ間ニ存在セル中部ノ異)異常ヨリ起ルコトアリ、本病ノ主徴ハ尿利多量ニ在リ、口渴盛ナルハ

客症タルニ過ギズ、尿色稀薄ニシテ殆ンド水ノ如ク異重僅ニ一〇〇二  
—一〇〇四、異常成分ヲ含マズ、其廿四時間量モ亦健尿成分量ト大差ナ  
シ、腎臟ニハ解剖的變狀ナシ、皮膚疾患ニ對シテハ糖尿病ノ如ク特別ナ  
ル素因ヲ有セズ、唯ダ皮膚ノ乾燥、上皮剝脫等ハ糖尿病ノ如キ者アリ  
本病ノ原因及病理ハ全ク不明ナレトシテ腦疾患、頭蓋底骨傷等ニ  
併發スルコトアリ  
六、七歳以上ノ小兒ニ發スルコト多シ、發生多クハ徐  
々ニシテ經過モ亦慢性ナリ、然レ豫後必ズシモ不良ナラズ

**療法**

大ニ患者ノ營養ニ留意シ、常ニ滋養強壯ノ食物ヲ與ヘ、適宜ノ  
運動遊戯ヲナサシメ、兼ネテ皮膚ノ攝生ニ注意シ總テ身體衰弱ヲ支フ  
ルコトニ務ムベシ、飲用物ヲ節減スルハ效ナシ、之ガ爲ニ却テ患者ノ衰弱

ヲ増進セシム、飲用物ハ可及的温メタル物ヲ與フルヲ良トス、殊ニ牛乳ヲ以テ飲用水ニ換フルヲ最モ利益トスベシ、内服藥ハ夥多ナルモ無効ノモノ多シ、今日諸家ノ施用スルモノハ「コデイン」、水製麥角越幾斯平流電氣等ナリ

○「コデイン」

〇・〇〇二五—〇・〇〇五

白糖

〇・四

右爲一包、一日二回乃至三回

一包宛

○水製麥角越幾斯

一・〇

縮水

八〇〇〇

單舍利別

二〇〇〇

右每三時一茶匙乃至一小兒匙宛

○安知必林

〇・五—二・〇

縮水

八〇〇〇

單舍利別

二〇〇〇

右一日三回乃至四回二日ニ

分服

### 第十篇 眼、耳及皮膚諸病

眼疾、耳疾等ハ最モ多ク小兒ニ發シ、眼家ニアラザル實地家ト雖凡日々之ガ治療ヲ要スル、止ムヲ得ザル二三例ヲ左ニ掲グ、其他ハ宜シク専門ノ書ニ就テ見ルベシ

#### 第一節 眼ノ疾患

##### 〔一〕眼瞼炎 Blepharitis

眼瞼炎ハ眼瞼ノ皮膚及腺ノ炎症ニ起因ス、之ニ二種アリ、甲ハ眼瞼縁ノ脂漏、乙ハ眼瞼縁ノ「エクツエーマ」ナリ  
眼瞼縁脂漏 (Seborrhoe) ヲ發セバ、搔痒ヲ覺エ眼瞼縁充血肥厚シ、脂腺分泌ノ盛ナルヨリ黃痂及鱗屑ヲ多ク生ジ、之レヲ除ケバ皮膚赤色ヲ呈シ上皮菲薄トナレリ、本病ハ貧血腺病質ノ者ニ多ク、經過多クハ慢性ナリ



**療法**

先ヅ布片ニ湯ヲ浸シ、黃痂及鱗屑ヲ拭ヒ、屢之ヲ行ヒ眼緣清潔トナリタル時ニ百倍乃至五十倍ノ亞鉛花軟膏若クハ鉛糖、グゼリン若クハ百倍ノ黃降汞、グゼリンヲ塗布スベシ  
眼險、エクチエ、マハ殊ニ腺病質ノ者ニ多ク、時トシテ頭部、耳翼、顔面等ヨリ蔓延シ或ハ特ニ爰ニ發シ水泡、膿疱ヲ生ジ、黃痂ヲ結ビ、睫毛ヲ結束シ、險緣充血肥厚シ、糜爛潰瘍等ヲ生ジ、其慢性ニ陥ルヤ毛根ノ化膿ヲ來シ、睫毛脫落シ再生セザルコアリ、或ハ睫毛亂生症ヲ致シ或ハ外瞼若クハ内瞼症ヲ發シ或ハ眼險肥厚ヲ來ス

**療法**

患部ヲ清潔ニシ、百倍乃至五十倍ノ白降汞若クハ赤降汞軟膏鉛糖水器法等ヲ試ムベシ、若シ潰瘍アレバ二日乃至三日ヲ隔テ棒硝酸銀ヲ以テ腐蝕スベシ、若シ皮下組織ノ肥厚ヲ起サバ二日乃至三日ヲ隔テ險緣ニ沃度丁幾ヲ塗布スベシ、(結膜囊ニ入ラザル様注意スベシ)

**〔二〕水泡性結膜炎及水泡性角膜炎**

Conjunctivitis et Keratitis phlyctenulosa

水泡性結膜炎若クハ角膜炎ハ結膜ノ組織中ニ及角膜ノ上皮下ニ一箇或ハ數箇ノ粟粒大若クハ之ヨリモ細小ナル結節ヲ生ジ、疼痛、涙液溢流、羞明等ヲ起シ、多クハ兩眼ニ發ス、——右二病ハ腺病質ノ者ニ多ク發シ屢、再發シ經過往々慢性ニ陥ルコアリ故ニ腺病性ノ名アリ

兩種共ニ五年乃至八年以下ノ小兒ニ多ク、同時ニ鼻加答兒、耳漏、エクチエ、一マ等ニ罹ル者多シ又麻疹ノ如キ急性傳染病ノ恢復期ニ發スルコアリ

**療法**

若シ腺病質ノ小兒ノ本病ニ罹ラバ總テ腺病症ノ條下ニ於テ論ジタル方法ニ依テ全身療法ヲ施サル可カラズ  
局所療法ニハ先ヅ甘汞撒布ヲ試ミ、刺戟症狀ノ緩解シタル後ハ黃降汞軟膏、黃降汞〇・二、グゼリン、一〇〇ヲ毎日一回麻實大ノモノヲ硝子杆ニテ結膜囊中ニ入レ而シテ眼險上ヨリ輕ク摩擦スベシ——若シ軟膏ヲ貼スルモ効ナケレバ一時冷器法ヲ行ヒ、アトロピン(〇・一水二〇〇)點眼

ヲ試ムベシ  
潰瘍ヲ生ズレバ五十倍乃至二十倍ノ硝酸銀水ヲ用ヒ刺戟症アレバ冷  
罨法ヲ行フベシ

## 第二節 耳病

### 〔一〕外耳炎 Otitis externa

**原因** 種々ノ皮疹、異物、指ヲ以テ搔キタル刺戟等ハ主タル原因ナレ  
ル。時トシテ原因ノ不明ナルコアリ、殊ニ腺病質ノ者ニ然リトス、又癬瘡  
ニ由ルコアリ

**症候** 紅斑性、外耳炎ハ初メハ耳聾ノ分泌増進及蓄積、外聽道閉塞等  
ノ症狀ヲ起セ、兩三日ヲ經レバ諸症緩解ス  
加答兒性、外耳炎ハ外聽道ニ赤色ヲ呈シ、分泌物ヲ以テ充填シ、聽神減退  
シ、耳痛ヲ發シ、殊ニ下顎ノ咀嚼運動、咳嗽、噴鼻若クハ耳翼ニ觸ル、キニ

増劇シ、幼稚ナル者ハ神思不安、睡眠靜穩ナラズ、兩三日ヲ經レバ初ハ澄  
液性ナルモ後ニハ膿性ノ液ヲ分泌シ、發熱シ、側部ノ頸腺ニ腫脹ヲ起ス  
コアリ、斯ク耳漏ノ起ルニ至レバ之ヨリ一時ニ諸症ノ緩解スルヲ常ト  
ス、耳漏ノ轉歸ハ一様ナラズ、適當ノ治療ニ依テ速ニ治癒スルモノアリ、  
或ハ殊ニ腺病質ノ者ニ在テハ慢性ニ陥リ、鼓膜ノ變常ヲ來シ、聽神減退  
ヲ起スコアリ、或ハ肉芽ヲ生ジ「ポリープ」ヲ繼發スルコアリ、或ハ鼓膜破  
レテ中耳炎ヲ續發スルコアリ、或ハ甚シケレバ外聽道ヲ成セル骨質ノ  
「カリエス」骨疽ヲ續發シ、若クハ化膿シテ耳翼ノ後側ニ瘻管ヲ生ズルコ  
アリ  
癬瘡ヲ生ジタル者即癬瘡性外耳炎ハ疼痛極メテ強ケレバ膿液ヲ漏セ  
バ頓ニ疼痛止ミ速カニ治癒ス  
**療法** 異物アレバ注意シテ水液ヲ注入シテ之ヲ除クベシ、癬瘡ヲ生  
ジタル者ハ溫罨法ヲ用ヒテ化膿ヲ促シ切開スベシ  
總テ分泌物ヲ洗滌シ、外聽道ヲ清潔ニスルコト緊要ナレバ、毎日一回乃至

二回温メタル消毒液ヲ以テ洗滌シ(三%硼酸水、〇.二%昇汞水、二%石炭酸水、一%サリチル「酸水等」而シテ其間ハ石炭酸グリセリン「溶液」(二十倍ノモノ)、硼酸グリセリン「溶液」(十倍ノモノ、若クハ硼酸末若クハ收斂劑「硫酸亞鉛」〇.二%餽水グリセリン「各一〇〇」等ヲ撰ンデ外聽道ニ入レ置クベシ

### 〔二〕中耳炎

Otitis media

中耳炎ハ小兒ニ發スルコト多シ、殊ニ哺乳兒ニ在テハオイスタヒー管ノ短キ、管空ノ比較的大ナルト、身體抵抗力ノ薄弱ナルトハ其多發ノ原因ナリ、之ニ加答兒性ト化膿性ノ二種アリ

#### 原因

鼻及咽頭病ノ蔓延シテ繼發スルコトアリ咽頭炎、鼻炎、實布の里或ハ急性及慢性傳染病、肺炎、氣管枝炎等ニ發シ、或ハ異物外傷等ニ由リ或ハ外聽道炎ニ續發ス、或ハ時トシテ原因ノ明カナラザル者アリ、總テ本病ハ腺病質若クハ結核性ノ者ニ發シ易シ

#### 症候

本病ノ症狀ハ加答兒性ト化膿性トニ由テ多少異ナルノ點アレモ單ニ發熱、不安、不眠、啼泣等ノ一般症狀ノミノコ多シ、殊ニ哺乳兒ニ在テハ早ク之ヲ診斷スルコト能ハザルモノ少ナカラズ、左ニ稍、成長シタル小兒ノ症狀ヲ掲グ

(甲)加答兒性中耳炎 初ハ鼓膜充血シ、中耳ニ滲出ヲ生ズレバ鼓膜光澤ヲ失ヒ滲出増加スレバ鼓膜ハ外方ニ膨レ(殊ニ其後上部)、多少ノ耳痛(時トシテ劇痛)ト頭痛ヲ兼ネ、聽神ハ減退シ、時トシテ發熱アリ、兩三日ヲ經レバ間々鼓膜破レテ粘性ノ膿汁ヲ漏シ一時ニ總テノ病狀輕快シ、其後ハ適當ナル治療ニ依レバ鼓膜ノ穿孔治癒シ、聽神亦恢復ス、或ハ慢性ニ陥リ膿漏永ク治セズ聽神再ビ恢復セザル者アリ

(乙)化膿性中耳炎 劇痛、高熱、神思不安等ノ症ヲ以テ起リ、顎下腺、側部ノ頸腺等間々腫脹シ、耳ニ觸レ若クハ壓迫スレバ疼痛増劇シ、絶エズ啼泣シ、哺乳及ビ嚙下スルコト能ハズ稀ニハ痙攣ヲ發スルコトアリ、而シテ五日六日ヲ經レバ鼓膜多クハ破レテ少シク血液ヲ混ジタル臭氣アル膿汁

(耳小骨若クハ小キ骨片ヲ混ズルコトアリ)ヲ漏シ諸症大ニ輕快ス、其後ノ經過ハ或ハ膿漏永ク續キ聽神退減シ慢性耳漏トナル者アリ、或ハ膿汁ハ乳嘴突起ノ海綿様部内ニ破潰シ、而シテ更ニ外部ニ破潰スルアリ、或ハ顛顛骨ノ「カリエス」骨疽「セブチヘミー」靜脈竇栓塞、腦膜炎、腦實質炎等ヲ續發スルコトアリ

**療法**

初期ニハ小兒強壯ナレバ耳後乳嘴突起ノ部ニ水蛭ヲ貼シ、其後ハ冷罨法ヲ施シ一〇—二〇%ノ「コカイン」液ヲ外聽道内ニ點滴シ以テ疼痛ノ緩解ヲ試ムベシ、若シ猶ホ諸症増進スレバ早ク鼓膜ヲ穿刺シ以テ緩解ヲ促シ、兼ネテ恐ルベキ續發症ヲ豫防スベシ  
耳漏ニハ外聽道炎ノ條下ニ於テ論ジタル方法ニ依ルベシ而シテ腺病質ノ小兒ナレバ同時ニ之ガ全身療法(腺病質ノ條下ヲ參照スベシ)ヲ施スベシ  
其他乳嘴突起ノ疾患等ハ宜シク外科書ニ就テ其方法ヲ見ルベシ

**〔三〕異物**

吾人ガ屢々實驗スル小兒外聽道ノ異物ハ豌豆、大豆、硝子球、木片、紙片ノ球等ニシテ遊戯ノ際自ラ挿入シタルモノ少カラズ、其他蟲類ノ入テ出デザルモノアリ

總テ之等ノ異物ハ器械的ニ外聽道ヲ刺戟シ、前條ニ論ジタル外聽道炎ヲ起シ甚シキキハ鼓膜ヲ破リテ中耳炎ヲ續發スルコトアリ

**療法**

治法ハ素ヨリ速カニ異物ヲ除クニアリト雖モ、時トシテ之ヲ除クコト甚ダ困難ナルコトアリ、通常水ヲ稍力ヲ用ヒテ(甚シク強力ヲ加フ可カラズ)注入スレバ異物自ラ流出スレモ時トシテ出デザルコトアリ、斯ノ如キ場合ニハ器械ニ依ラザル可カラズ、就中輕便ナルハダウ<sup>#</sup>エル氏匙トス(此際困難ナルハ器械ヲ以テ異物ニ觸ル、毎ニ却テ異物ヲ深部ニ送ルニアリ)

### 第三節 皮膚諸病

#### 〔一〕紅斑及糜爛

*Erythema et Interitigo*

屢之ガ原因トナル所ノ器械的及化學的若クハ温度ノ刺戟ヲ除キ之ガ豫防法トシテ屢々入浴又ハ局部洗滌ヲ行ヒ充分ニ清淨ニナシ、軟カキ布片ヲ以テ拭ヒテ乾カシメ而シテ左ノ處方ニ在ル粉末ヲ充分ニ散布スベシ

既ニ糜爛ヲ生スレバ鉛糖水、硼酸水(三%)、醋酸礬土液(一%)、コレゾルチン液(〇・五%)等ヲ用ユベシ、或ハ阿列布油ニ「サリチル」酸(一%)若クハ安息香酸(一%)ヲ加入シ使用スルモ可ナリ、一日二―三回位ハ局部ヲ充分清潔ニシ(油劑ノ「キハ」ベンチン又ハ「エーテル」ノ如キ藥液ヲ以テ拭淨スベシ)時トシテ硼酸(一〇%)、硝煮(一〇%)、デルマトール(一〇%)、タンノフォルム(一〇%)、丹寧酸(一〇%)ヲ加入スルコアリ

若シ頑固ニシテ容易ニ治癒セザル「キハ」イヒチオール(1/100)、「タンノフォルム」(五―一〇%)、硼酸(五―一〇%)ノ泥膏等ヲ試ムベシ

〇「サリチル」酸	一〇―二〇	〇酸化亞鉛	各一〇〇
亞鉛花末	四〇〇	澱粉	右患部ニ散布
澱粉	各三〇〇	〇鉛糖末	五〇
「タルクム」	各三〇〇	縮水	二〇〇〇
〇明礬	混和 散布料	右外用	
硼酸	各三〇	〇「サリチル」酸	一〇
澱粉	各五〇〇	「タルクム」	一〇〇〇
「タルクム」	右混和 散布料	〇「イヒチチオール」	一〇
〇鉛糖	五〇	「タルクム」	一〇〇〇
明礬	二五〇	〇亞鉛花	右散布
水	五〇〇〇	「タルクム」	各一〇〇
右混和(適宜ノ一回量ヲ取リ稀釋シテ)「ブロー液」	外用		

○硼酸	三・〇	○硝酸銀	一・〇
「ツッゼリン」	二五・〇	縮水	五〇・〇
右爲軟膏外用		右外用	
○昇汞	〇・〇五		
縮水	一〇〇・〇		
右外用			

〔一〕蕁麻疹 Urticaria

菓實、魚類、莫兒比涅、規尼涅、格魯拉兒、珊瑚寧、水楊酸等及腸蟲、皮膚病、生殖器病等間々之ガ原因トナレバ宜シク注意スベシ  
專用ノ藥劑ハ鐵法列兒水「ベルラドンナ」越幾斯、石炭酸、硼酸、酸化亞鉛醋酸等ナリ

- 法列兒水 各四・〇
- 薄荷水 右一日三回二滴乃至四滴宛

其他曹達浴(一浴中曹達二〇〇・〇)、明礬浴(同上二〇〇・〇)、昇汞浴(同上二〇〇・〇)等ヲ施用ス

〔二〕匍行疹 Herpes

治療ヲ施サバ爾モ自治スルヲ多シ

○酸化亞鉛	各一〇〇	○「イヒチオール」	一・〇
澱粉		「タルタム」	一〇〇・〇
右散布		右散布	
○亞鉛化	各一〇〇	○次醋酸鉛軟膏	二五・〇
「タルタム」		右外用	
右散布		○石炭酸	〇・五
○「サリチル」酸	一・〇	阿列布油	六〇・〇
「タルタム」	一〇〇・〇	右外用	
右散布			

〔四〕「エクチエーマ」及小膿疱疹 Eczema

et Impetigo

之ガ原因タル外來ノ刺戟(寒熱器械的及ビ化學的)腺病質肥滿等ニ注意シ、局處治療ト同時ニ原因療法ヲ施シ、腺病質ニハ滋養強壯ノ食物ヲ與ヘ兼ネテ肝油、鐵、沃度加里、ケレオソート等ヲ撰用スベシ  
 本病ノ局處療法ハ其急性ト慢性ノモノトハ自ラ方針ヲ異ニス、故ニ爰ニハ先ヅ急性濕疹ノ治療ヲ論シ、次デ慢性濕疹ノ治療法ニ及ブベシ

〔甲〕急性「エクチエーム」治療法

未ダ盛ニ發育シツ、アル未熟ノ即初期「エクチエーム」ノ治療ハ第一ニ其炎症及搔痒ヲ増進セシムル原因例之バ襯衣ノ壓迫及摩擦、炎熱發汗、濕潤等ヲ成ルベク防遏スルヲ必要トス、故ニ洗滌、入浴等ハ爲サルヲ良トス、局部ノ清潔ヲ行ハシニハ油、鉛糖水、醋酸礬土水(二%)、硼酸水(三%)、ゾルチン水(〇・五%)ヲ使用スベシ  
 急性「エクチエーム」ノ初期タル糜爛性、濕性ノモノニハ發汗、濕潤等ノ刺戟ヲ防グガ爲ニ散末劑ノ散布、軟膏、冷罨法(鉛糖水、醋酸礬土水(二%)、硼酸水

(三%)、ゾルチン水(〇・五%)等ヲ撰用スベシ

急性「エクチエーム」ノ攝生療法トシテフエンケルス、スタインハ脱鹽或ハ無鹽牛乳(„Entsalzte Milch“)ヲ稱用セリ、其製造法ハ蛋白乳ヲ製スルト同一法ニヨリ乳漿ト凝固物トヲ分離シ、其除キタル乳漿ノ代リニ $\frac{1}{10}$ — $\frac{1}{5}$ 量ノ乳漿ト $\frac{10}{10}$ — $\frac{1}{5}$ ノ水又ハ穀粒煎汁ヲ以テスルカ或ハ $\frac{1}{10}$ — $\frac{1}{5}$ ノ酸酵乳ト $\frac{10}{10}$ — $\frac{1}{5}$ ノ水若クハ穀粒煎汁トヲ混合シタル乳汁トナシ、之ニ適宜ノ(四—五%)糖ヲ加ヘテ使用セリ

水泡性若クハ濕性ノ「エクチエーム」ニハ前記冷罨法ヲ行ヒ(二時ゴトニ交換)之ヲ中止セル間ハ散布劑ヲ充分ニ散布シテ效アルコアリ、搔痒ト炎症ニ對シテ有效ナルハ「ツメノール」ニシテ泥膏ヲ(二—一〇%)試ムベシ、  
 「タンノフォルム」(五—一〇%)モ亦佳ナリ

軟膏及泥膏等ニ堪ヘザル者ニ在テハ罨法ト散布法トヲ合併セル即罨法液ニ散布劑ヲ調合セル振盪水劑ヲ作りテ試ムベシ

○亞鉛花	各二〇〇
「タルクム」	一〇〇
「グリセリン」	五〇〇
鉛糖水	右外用
○「サリチル」酸	一〇―二〇
澱粉	各五〇〇
「タルクム」	右同上
○亞鉛花末	各五〇
次硝酸蒼鉛	二・五
炭酸鉛	五〇
「タルクム」	右同上
○硼酸末	五〇
澱粉	各五〇〇
「タルクム」	右同上

○澱粉	各二五〇
亞鉛華末	右混合散布料
○「デルマトール」	一〇〇
「タルクム」	一〇〇〇
右散布料	
○鉛糖	二五〇
明礬	五〇
水	五〇〇〇
右十倍ニ稀釋シ外用、プーロー	
液	
○「レゾルチン」	一〇〇
餾水	一〇〇〇
右外用	
○百倍鉛糖水	右外用
○二十倍硼酸軟膏	右外用

○十倍次硝酸鉛軟膏

右外用	
○「ツメノール」	一〇―五〇
亞鉛華末	二〇〇
「タルクム」	二〇〇
「グリセリン」	一〇〇〇
餾水	一〇〇〇
右外用	

前記振盪液ニ $\frac{1}{4}$ ― $1\%$ ノ「イヒチオール」又ハ $\frac{1}{2}$ ― $1\%$ ノ「レゾルチン」ヲ加入スルコトアリ

○ヘブラ氏軟膏  
右外用

蓄疹性濕疹ハ屢、搔痒強シ、前記之ニ對スル藥劑ノ他左ノ水劑ヲ塗布シ、其上ニ前記藥劑ノ散布ヲナスコトアリ



○石炭酸 (或ハ「サリチル」 酸又ハ硼酸)	一・〇	○薄荷	五・〇
酒精	一五〇・〇	水楊酸	一・〇
「ラベンデル」油	五〇〇・〇	石炭酸	〇・五
「グリセリン」	二・五	錫水	一〇〇〇・〇
右混和塗布		右外用	
○樟「テル」油	五・〇		
「エーテル」			
酒精	各七・五		
右混和液ヲ濾過シ之ニ「ラベ ンデル」精二・〇ヲ加フ			
右同上			
或ハ左ニ掲グル軟膏ヲ試ムベシ			
○水楊酸	一・〇		
薄荷	一〇〇		
「ラノリン」	二・〇		
「ワセリン」			
澱粉			
亞鉛華	各一〇〇		
右外用			

水泡性及膿胞性ニモ又散末ノ散布法ヲ行ヒ能ク治療スル者ナレハ、或ハ脂肪劑若クハ「セラ」法阿列布油、二十倍硼酸軟膏貼用或ハ二十倍ブーロ液、百倍「レゾルチン」水等ノ「セラ」法ヲ用ヒ、結痂ヲ剝離シ、其潰爛シタル創面ニ適當ノ軟膏ヲ貼シ却テ偉效ヲ奏スベシ

○「テレマイトル」	二・〇	○亞鉛化	各一〇〇
亞鉛華	一〇〇	「タルタム」	
澱粉	四〇〇	右外用	
右散布料		○「サリチル」酸	二・〇
○ヘプラー氏軟膏	五〇〇	「ラノリン」	五〇〇
右布片ニ厚ク(一分位)塗り之		亞鉛花	各二五〇
ヲ一日二、三回患部ニ貼ス		澱粉	
○單鉛硬膏		右作軟膏	
「ワセリン」	各二五〇	○次硝酸蒼鉛	一〇〇
右同上		亞鉛花	二〇
○硼酸	五・〇	石炭酸	二十滴
家猪脂	六〇〇	右同上	三〇〇

○安息酸末 五・〇  
 家猪脂 一六〇・〇  
 亞鉛花 二五・〇  
 右作軟膏(ウキルソソ)氏軟膏)

○亞鉛花 各二五・〇  
 澱粉 五〇・〇  
 家猪脂 一・〇  
 撒里矢爾酸  
 右作泥膏(ラザル)氏(「バスタ」)

前記諸方ヲ使用シ落屑期ニ至ルモ再發シテ充分治癒ニ赴カザル者ニハ結痂ヲ除キ二―五%ノ硝酸銀液塗布ヲ試ムベシ、一時刺戟ノ爲ニ急性症狀ヲ發スルガ故ニ再ビ前記ノ急性療法ヲ行ヒ治癒ヲ計ルベシ水泡、膿疱及結痂ノ時期既ニ過ギ、上皮剝脫ノ期即鱗屑性ノ者ハ一日數回刺戟セザル脂肪ヲ撰ンデ之ヲ塗布シ其上ニ散末劑ヲ散布スベシ

○「ケリセリン」 五〇・〇  
 右塗布  
 ○ウキルソソ氏軟膏 二〇・〇  
 右塗布  
 ○白降汞 一〇・五  
 家猪脂 二〇・〇  
 右同上

○亞鉛花 〇・五  
 家猪脂 二〇・〇  
 右同上  
 ○「ラノリン」 一〇・〇  
 安息香脂 二〇・〇  
 薔薇水 三〇・〇  
 右同上

○次硝酸蒼鉛 五・〇  
 家猪脂 二〇・〇  
 右同上

### 〔乙〕慢性「エクチューマ」治療法

慢性「エクチューマ」ヲ治療スルニ當テハ第一ニ其附著セル結痂ノミナラズ、乾燥肥厚セル上皮ヲモ併セテ除クヲ目的トシ、次ニ上皮ノ成形過多、時々急性「エクチューマ」ヲ再發スル發作等ノ原因トナレル慢性充血ヲ除クヲ第二ノ目的トス

結痂及上皮ヲ除カントシ之ヲ軟化セシムルハ阿列布油、肝油、ヘブラ氏軟膏、華攝林鉛軟膏等及水ヲ使用スベシ、而シテ充分軟化スレバ時々石鹼ヲ用ヒ洗滌スベシ

○單銘硬膏

各等分

○「ナフトール」  
阿列布油  
右同上

一・〇  
一〇〇・〇

○石炭酸

阿列布油

一〇〇・〇

百露拔爾撒謨

二〇〇・〇

右塗布料

結痂ノ軟化、炎性及浸潤ノ消散ヲ促スニハ「ピク」ノ「サリチル」酸硬膏[Imp-  
plast. saponat. salicylicum]ヲ使用シ偉效アルコアリ

結痂去リタル後、上皮剝脱スル充血面ヲ(鱗屑性現ハセバ硫黃(五—一〇  
%)又ハ「テール」ヲ用ヒ、或ハ急性ノ條下ニ記シタル軟膏ヲ試ムベシ

○「テール」

一〇〇・〇

○「ナフトール」

一〇〇—二〇〇

「グリセリン」

五〇

家猪脂

一〇〇・〇

「メエローバルサム」

五〇〇

右同上

右作軟膏

二・五

内服ニハ其原因療法ノ他ニ「フォーレル」水ヲ使用スルコト多シ、小兒ニハ其  
用量ニ注意スベシ

○「フォーレル」水

二・〇

縮水

八・〇

右一日三回五滴宛

(三年ノ者ニ投シタル處方ニ  
シテ五滴中「フォ」水一滴ヲ含  
割ム)

### 〔五〕剝脱性皮炎 Dermatitis exfoliativa

患部ヲ清潔ニシ石炭酸阿列布油鉛糖水等ヲ撰用スベシ

○阿列布油

六〇〇

○石炭酸

二・〇

石炭酸

一〇

次醋酸鉛

四〇

右外用

一〇

縮水

二〇〇・〇

○白降汞

一〇

右患部洗滌

二〇〇・〇

單軟膏

一五〇

右患部洗滌

二〇〇・〇

### 〔六〕多發性皮下膿瘍

*Abscessus subcut. multip.*

全身營養ニ最モ注意シ兼ネテ腺病療法等ヲ施スベシ、而シテ膿瘍ハ盡ク切開シ、沃度「フォルム」ヲ散布シ、繃帶ヲ施スベシ

### 〔七〕腺病性苦癬

*Lichen scrophulosus*

總テ腺病質ノ章ニ於テ論述シタル療法ニ依リ之ヲ治療シ、兼ネテ局處ニ杜松子油、肝油、ヘブラ氏軟膏等ヲ試ムベシ

- 肝油 各五〇〇
- 杜松子油 各五〇〇
- 右外用
- ヘブラ氏軟膏 五〇〇
- 右外用
- 杜松子油 一〇〇〇
- 「グリセリン」 六〇〇
- 右外用

### 〔八〕痒癬

*Prurigo*

之ガ療法夥多ニシテ枚舉スルニ遑アラズ、故ニ其普ク世ニ稱用セルモノノミヲ茲ニ掲グ

内服薬トシテハ有效ノモノナシ  
局處療法ハ温浴、浴後ノ阿列布油、若クハ獸脂若クハ肝油等ノ塗擦、昇汞浴(一浴中昇汞)硫黄浴(一浴中硫化加里)ニシテ、或ハ「テール」若クハ軟石鹼塗擦後温浴ヲ施シ、或ハ「ナフトール」、「ペールーバルサム」、硫黄等ノ軟膏ヲ塗擦シ、或ハ石炭酸「チモール」等ノ溶液ヲ外用ス

- 「β」ナフトール 五〇〇
- 「タルカム」 一〇〇
- 綠石鹼 三〇〇
- 「ワセリン」 七〇〇
- 右作軟膏(カボシ) 各一〇〇
- 「テール」 各一〇〇
- 硫黄華 「タルカム」 各一〇〇
- 綠石鹼 各二〇〇
- 豚脂 各二〇〇
- 右作軟膏(ワキルキンソン膏) 各二〇〇
- 「ナフトール」 一〇五
- 「ワセリン」 一〇〇
- 右外用
- 「ペールーバルサム」 五〇〇
- 醋酸鉛 一〇〇
- 單軟膏 二五〇
- 右外用

○「イヒチオール」 五〇〇  
 亞鉛華末 一〇〇〇  
 「タルクム」 一〇〇〇  
 「グリセリン」 一〇〇〇  
 縮水 一〇〇〇〇  
 右振盪水劑トシ外用  
 ○杜松子油 各五〇〇  
 肝油 各五〇〇  
 右外用  
 ○軟石鹼 五〇〇〇  
 硫黃華 一〇〇〇  
 右外用

○「テール」 硫黃華 各一〇〇〇  
 軟石鹼 各一〇〇〇  
 家猪脂 一二〇〇  
 右作軟膏外用  
 ○「チモール」 〇・一  
 「グリセリン」 一〇〇〇  
 縮水 一〇〇〇  
 右外用  
 ○石炭酸 一・五  
 「グリセリン」 一五〇〇  
 縮水 一五〇〇  
 右外用

〔九〕皮痒症

Pruritus Cutaneae

「テール」性液若クハ酒精液ヲ塗布スルヲ以テ有效ナル(一時ノ)療法トス、

或ハ之ニ石炭酸又ハ撒里矢爾酸ヲ加フルモ(隨意ノ溶液)可ナリ、内服藥ハ概シテ效ナシ

○「ナフトール」 一〇一五〇〇  
 「ラノリン」 各三〇〇〇  
 「ウツゼリン」 各三〇〇〇  
 縮水 各三〇〇〇  
 右作軟膏外用  
 ○「ナフトール」 各〇・五―三〇  
 石炭酸 各三〇〇〇  
 「ラノリン」 各三〇〇〇  
 「ウツゼリン」 各一五〇〇  
 縮水 各一五〇〇  
 右作軟膏外用

○「サントール」油 一〇〇〇―五〇〇〇  
 「ラノリン」 三〇〇〇  
 「ウツゼリン」 一〇〇〇〇  
 右同上

〔十〕疥癬

Scabies

專用ノ藥劑ヲ左ニ掲グ

○「パールバルサム」	二〇〇〇	○「エビカルミン」	一〇〇一・二〇〇
硝酸鉛	二〇〇	家猪脂	一〇〇〇
「ワセリン」	五〇〇〇	右作軟膏	
右外用		○「エビカルミン」	一〇〇一・二〇〇
○蘇合香	六〇〇〇	酒精	右外用
阿列布油	三〇〇〇	○昇華硫黃	
右外用		「テール」	各四〇〇〇
○「パールバルサム」		軟石鹼	
精製硫黃	各三〇〇	家猪脂	各八〇〇〇
單軟膏	五〇〇〇	白蠟	五〇〇
右外用		右作軟膏外用	
○「ナフトール」	五〇〇一・五〇〇		
脂肪	一〇〇〇〇		
右外用			

附 録

第一章 藥浴

一浴ノ水量ハ本邦現今ノ有様ニテハ家ゴトニ病院ゴトニ其浴器ノ差アリテ甚ダ不同ナレバ爰ニハ其一浴中ニ投ズル藥液ノ少量ヲ掲ゲ例ヘバ何瓦以上ト記ス歐洲ニ於テ小兒一浴ニ用フル水量ハ年齢ニヨリ不同ナルハ勿論ナルモ大略一〇「リール」以上五〇「リール」以下ト想像シテ可ナラン

(一)芳香浴 加密爾列泥菖根薄荷葉若クハ芳香茶劑ノ浸出液凡一〇〇〇以上ヲ一浴ニ投ズ(浸出スベキ藥種ハ浸出液全量ノ十分ノ一ト概算ス)

(二)糠浴 凡五〇〇〇以上ノ小麥糠ヲ一袋ニ入レ凡四〇〇〇〇以上ノ水ニテ三十分間ホド煮沸シ而シテ其煎汁ヲ一浴中ニ投ズ

(三)鹽浴 食鹽 五〇〇〇 以上ヲ一浴中ニ投ズ、或者ハ浴水中ノ鹽分二―四%ノモノヲ弱キ、四―六%ノモノヲ中等ノ、六―一〇%ノモノヲ強キ鹽浴ト三種ニ區別セリ

(四)硫黃浴 硫化加留謨 二〇〇―三〇〇 以上ヲ一浴ニ投ズ、此浴劑ニハ種々ノ加藥法アレバ爰ニハ之ヲ略ス

(五)芥子浴 芥子末 五〇〇 以上ヲ一袋ニ入レ之ヲ一浴中ニ投ジ而シテ數回其ヲ搾ルベシ

### 第二章 皮下注入藥ノ用量表

安息酸

安息酸 〇・六 酒精 一〇〇

右一筒皮下注入

石炭酸

石炭酸 〇・一 餾水 一〇〇

右半筒皮下注入

依的兒

「エーテル」

右十分ノ一乃至半筒皮下注入

鹽酸「アボモルフ#ン」

「アボモルフ#ン」 〇・〇〇五 餾水 一〇〇

右半筒皮下注入(注意ス)

硫酸「アトロピン」

「アトロピン」 〇・〇〇〇五 餾水 一〇〇

下右一筒皮下注入

「カンフル」

「カンフル」 〇・六 阿列布油 一〇〇

右四分ノ一筒下注入

水製麥角越幾斯

水製麥角越幾斯 一〇 餾水 「グリセリン」 各五〇

右一筒皮下注入

亞砒酸加里液

法列兒水 〇・四 餾水 一〇〇

右一筒皮下注入

鹽酸「ピロカルピン」

鹽酸「ピロカルピン」 〇・〇一—〇・〇五 餾水 一〇〇

右一筒乃至二筒皮下注入(注意ス)

硝酸「ストリキニーシ」若クハ硫酸「ストリキニーシ」

「ストリキニーシ」 〇・〇〇五—〇・〇二 餾水 一〇〇

右一筒皮下注入(注意ス)

### 第三章 中毒症

左ニ掲グル毒物ハ往々小兒ノ之ニ中毒スル物ノミヲ撰ビ其他ハ茲ニ

略ス

#### 〔一〕亞砒酸

(療法)吐劑、胃洗滌法、還元鐵ノ混和水、煨性「マグネシア」牛乳、下劑、興奮藥等ヲ撰用ス

#### 〔二〕「アトロピン」

(療法)吐劑「ピロカルピン」若クハ鹽酸莫兒比涅等ノ皮下注入、單寧、亞爾箇保兒等ノ内服ヲ試ムベシ

#### 〔三〕石炭酸

(療法)胃洗滌法、人工呼吸法、含糖石灰、硫酸曹達、牛乳等ノ内服、皮膚刺戟法及電氣等ヲ撰用スベシ

#### 〔四〕抱水「コロラール」

(療法)人工呼吸法「ストリキニーシ」ノ皮下注射、麝香ノ内服、水治法等



ヲ試ムベシ

〔五〕阿片及莫兒比涅

〔療法〕吐劑單寧ノ内服「アトロピン」「カンフル」「麝香等ノ皮下注入ニコッ  
フィー」ノ内服等ヲ撰用スベシ

〔六〕磷

〔療法〕胃洗滌法、吐劑(殊ニ硫酸銅ヲ稱用ス)的列竝底油内服等ヲ施シ  
テ兼ネテ脂肪アル食物ヲ嚴禁スベシ

〔七〕サントニン

〔療法〕人工呼吸法、吐劑、嘔囉仿謨若クハ「エーテル」ヲ吸入法、食鹽水灌  
腸(食鹽五〇〇調)等ヲ施スベシ

〔八〕ストリキニーン

〔療法〕吐劑、單寧、抱水、コロラール、嘔囉仿謨、臭素、加里、沃度、丁幾、クラ  
レ、平流電氣等ヲ撰用スベシ

第四章 用量及用器表

一「グラム」(一〇)ハ	一五・三五(關)―一六・四二(普)「ダレイン」
一「ダレイン」(一匹)ハ	平均 〇・〇六「グラム」
一「スクルベル」(一刀)ハ	平均 一・二五「グラム」
一「ドラクマ」(一弓)ハ	平均 三六―四〇「グラム」
一「オンス」(一弓)ハ	平均 三〇・〇「グラム」
一茶匙ハ	平均 五・〇「グラム」
一小兒匙ハ	平均 二茶匙即半食匙
一刀尖ハ	平均 四分一茶匙乃至半茶匙

増訂 兒科必携 終  
第十三版

同同同同明  
 三三三二二  
 十十二十十  
 四年年年年  
 三月六月三  
 月十八十二  
 日六日四日  
 出版出版出  
 版版版版版  
 刷

大同同同同明  
 正四四四三三  
 四十四十九八  
 四年年年年年  
 年十一月十  
 月三十日十  
 日七版版版  
 發行行行行

版權  
 所有

編纂者

弘田長

發行者

會社名  
 金原商店

代表者  
 金原さう

印刷者

吉原良三

印刷所

報文社  
 右同所

發兌元

(電話下谷  
 二四九〇番)

金原商店

東京市本郷區切通坂町二十一番地

正價金貳圓七拾錢

發賣書肆

全	東京市日本橋區通三丁目	丸善株式會社	東京市本鄉區湯島切通坂町	宮澤	書店		
全	市本鄉區湯島切通坂町	南江堂書店	大阪市中心齋橋筋博勞町	丸善	株式會社支社		
全	神田區鍛冶町	朝香屋書店	全	市心齋橋筋一丁目	松村文海堂		
全	市本鄉區春木町二丁目	半田屋書店	京都市寺町通二條下ル	若林茂一郎	大黑屋書店		
全	市全	區春木町三丁目	南江堂支店	全	市河原町二條下ル		
全	市全	區龍岡町	吐鳳堂書店	名古屋市榮町	丸善	書店	
全	市全	區全	町	根津	書店	岡山市上ノ町	
全	市全	區全	町	文榮堂書店	熊本市新二丁目	長崎	次郎
全	市全	區全	町	朝陽堂書店	長崎市引地町	安中集榮堂	
全	市全	區元富士町	明文館書店	金澤市片町	宇都宮書店	萬	松
全	市全	區全	町	文光堂書店	新潟市古町通	北	光
全	市全	區全	町	豐文堂書店	全	社	

終